

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

トビイロウンカの防除の徹底について

本年のトビイロウンカの発生はこれまで少なく推移し、9月上旬で平年並であります。9月上旬に県内圃場の一部で本虫の多発生によると考えられる黄化症状が認められました。

今後、9月下旬以降に坪枯れを本格的に引き起こす第三世代幼虫が発生してくるため、更に被害（坪枯れ）が拡大することが懸念されます。

については、必ず各圃場毎に発生状況を調査し、下記事項を参考にして防除を徹底してください。

記

1. 発生概況等

- (1) 9月3日～4日に実施した普通期水稻の巡回調査（48圃場）では、トビイロウンカの発生圃場率41.7%、寄生株率6.5%（平年10.5%、前年20.6%）であり、平年並で前年よりやや少ない（図1）。
- (2) 巡回調査以外の一部圃場で寄生密度の高く、本虫の多発生が原因と考えられる株の黄化が認められた（写真1、2）。
- (3) 寄生株率は8月下旬から9月上旬にかけて増加しており、本年の主発生（7月14日飛来虫）の第三世代幼虫（坪枯れ形成世代）が発生する9月下旬以降、更に発生が増加すると思われる（図1、2）。
- (4) 福岡管区气象台が9月4日に発表した九州北部地方の向こう1ヶ月予報では、トビイロウンカにとって並発生の気象条件となっている。

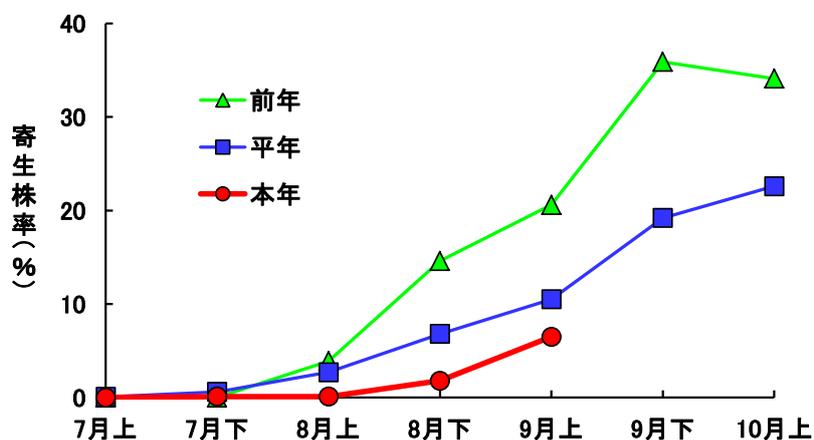


図1 普通期水稻におけるトビイロウンカの発生推移

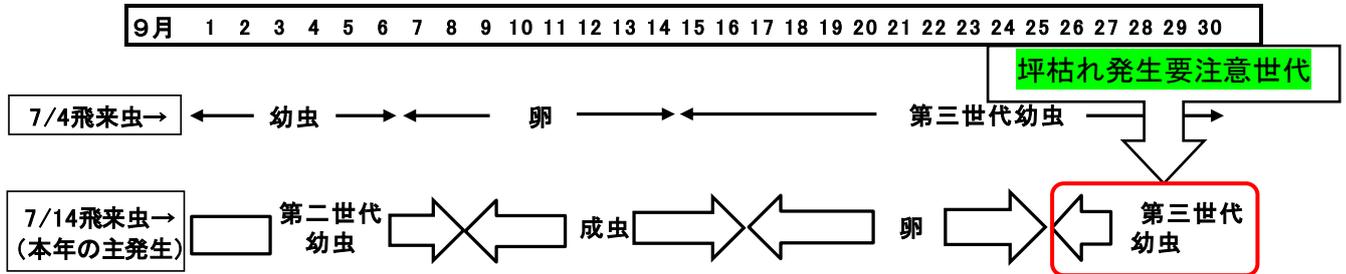
2. 防除対策

- (1) トビイロウンカの発生状況は圃場毎に大きく異なっており、圃場の外からの観察だけでは発生状況を確認できない。このため、これまでの防除実績にかかわらず、必ず各圃場毎に払い落とし法によって発生状況を調査し、防除の要否を決定する。
- (2) 9月中旬に老齢幼虫及び成虫の合計数が1株当たり5頭以上（要防除水準）の圃場では、早急に防除を実施する。
- (3) その後も発生状況を調査し、多発生圃場においては早急に防除を行う。

- (4) 本種は株元に生息しているので、**薬剤は株元まで十分かかるよう**、丁寧に散布する。
- (5) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。

図2 トビイロウンカの発生予想パターン 第6版

(平成26年9月11日、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- 7月4日、7月14日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(9月10日までは今年のデータ、9月11日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
- 最新の気温で再計算した結果、発生予想パターン第5版(8月27日作成)と比較して、**今回の第6版は、7月4日の飛来と7月14日の飛来ともに、9月の発生が1~2日遅くなった。**

参考: ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中~老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横 
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横~やや斜め後ろ 
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ 



写真1 トビイロウンカ多発生による株の黄化症状
(平成26年9月11日撮影)



写真2 黄化した株に多数寄生するトビイロウンカ
(平成26年9月11日撮影)